

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成25年11月7日(2013.11.7)

【公表番号】特表2013-505260(P2013-505260A)

【公表日】平成25年2月14日(2013.2.14)

【年通号数】公開・登録公報2013-008

【出願番号】特願2012-529934(P2012-529934)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/497 (2006.01)
 A 6 1 P 43/00 (2006.01)
 A 6 1 P 1/00 (2006.01)
 A 6 1 P 1/08 (2006.01)
 A 6 1 P 11/00 (2006.01)
 A 6 1 P 1/10 (2006.01)
 A 6 1 P 1/04 (2006.01)
 C 07 D 405/12 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/497
 A 6 1 P 43/00 1 1 1
 A 6 1 P 1/00
 A 6 1 P 1/08
 A 6 1 P 11/00
 A 6 1 P 1/10
 A 6 1 P 1/04
 C 07 D 405/12

【手続補正書】

【提出日】平成25年9月13日(2013.9.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

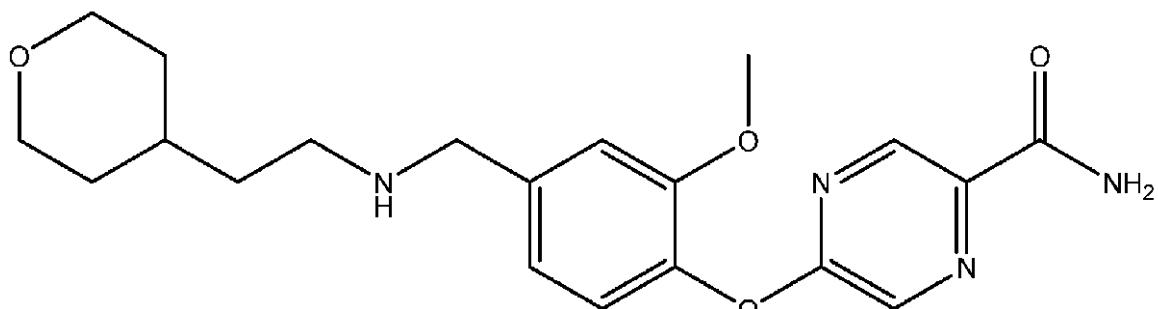
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

末梢におけるオピオイド受容体の活性化と関連している対象の病状を治療または予防するための医薬組成物であって、治療有効量の式(I)：

【化1】



(I)

の化合物、またはその薬学的に許容され得る塩を含み、前記治療有効量が約0.01mg～約1.0mg/日である、医薬組成物。

【請求項2】

前記治療有効量が約0.05mg～約0.5mg/日である、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項3】

前記病状が、術後イレウス、術後恶心および嘔吐、オピオイド誘発性恶心および嘔吐、オピオイド誘発性呼吸抑制、オピオイド誘発性便秘、オピオイド誘発性腸管機能不全、慢性特発性便秘、便秘型過敏性腸症候群、腸偽性閉塞、胃排出遅延、経腸栄養不耐性、麻薬性イレウス、腸の閉塞、術後の消化器回復の加速およびオピオイド誘発性鼓脹からなる群より選択される、請求項1に記載の医薬組成物。

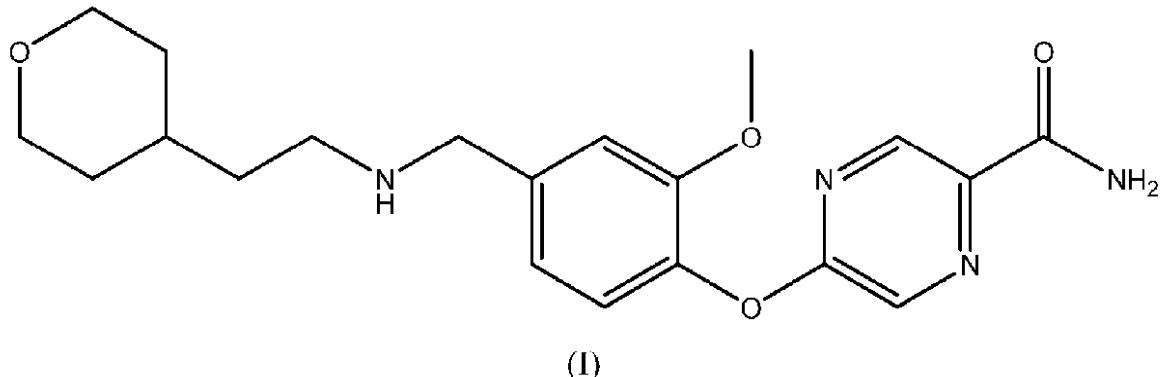
【請求項4】

前記対象がヒトである、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項5】

ヒトのオピオイド誘発性便秘を治療または予防するための医薬組成物であって、治療有効量の式(I)：

【化2】



の化合物、またはその薬学的に許容され得る塩を含み、前記治療有効量が約0.01mg～約1.0mg/日である、医薬組成物。

【請求項6】

前記式(I)の化合物の有効量が約0.05～約0.5mg/日である、請求項5に記載の医薬組成物。

【請求項7】

前記式(I)の化合物がオピオイド鎮痛薬と一緒に投与される、請求項5に記載の医薬組成物。

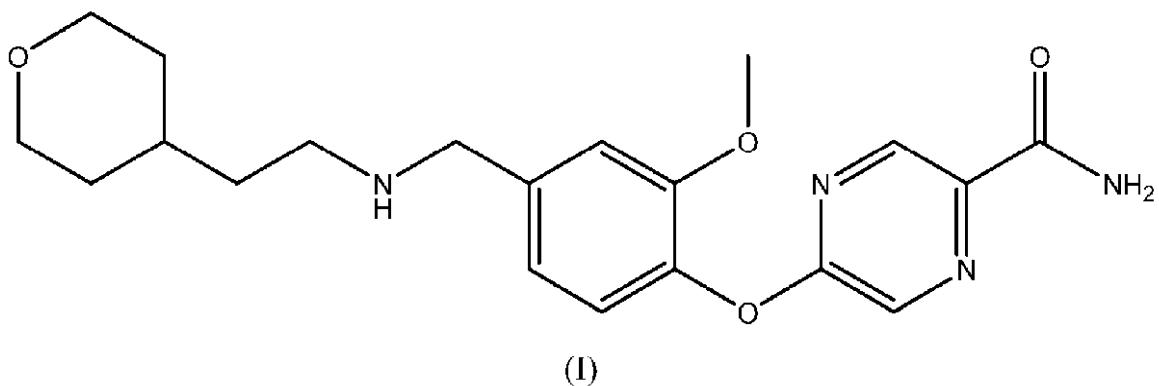
【請求項8】

経口投薬形態、舌下投薬形態、静脈内投薬形態、筋肉内投薬形態、皮下投薬形態および経皮投薬形態からなる群より選択される投薬形態である、請求項5に記載の医薬組成物。

【請求項9】

ヒトのオピオイド誘発性腸管機能不全を治療または予防するための医薬組成物であって、治療有効量の式(I)：

【化3】



の化合物、またはその薬学的に許容され得る塩を含み、前記治療有効量が約0.01mg～約1.0mg/日である、医薬組成物。

【請求項10】

前記式(I)の化合物の有効量が約0.05～約0.5mg/日である、請求項9に記載の医薬組成物。

【請求項11】

前記式(I)の化合物がオピオイド鎮痛薬と一緒に投与される、請求項9に記載の医薬組成物。

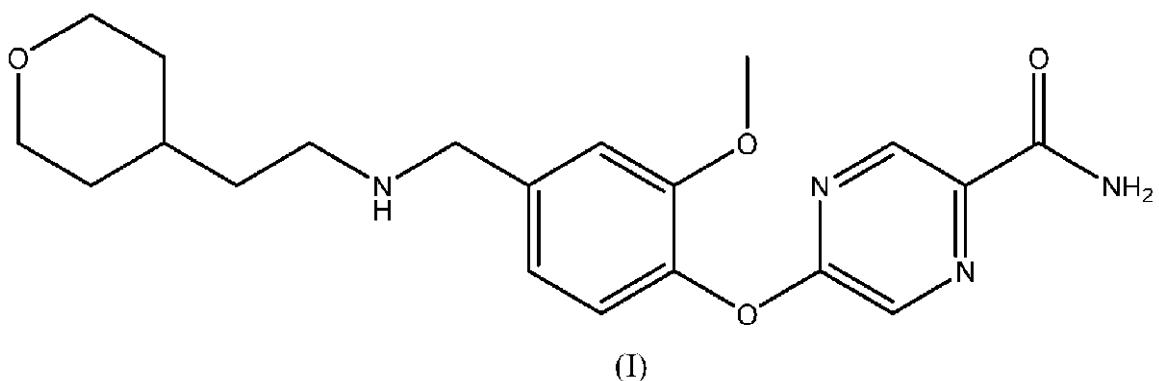
【請求項12】

経口投薬形態、舌下投薬形態、静脈内投薬形態、筋肉内投薬形態、皮下投薬形態および経皮投薬形態からなる群より選択される投薬形態である、請求項9に記載の医薬組成物。

【請求項13】

末梢におけるオピオイド受容体の活性化と関連している対象の病状の治療または予防のための医薬の調製における、治療有効量の式(I)：

【化4】



の化合物、またはその薬学的に許容され得る塩の使用であって、前記治療有効量が約0.01mg～約1.0mg/日である使用。

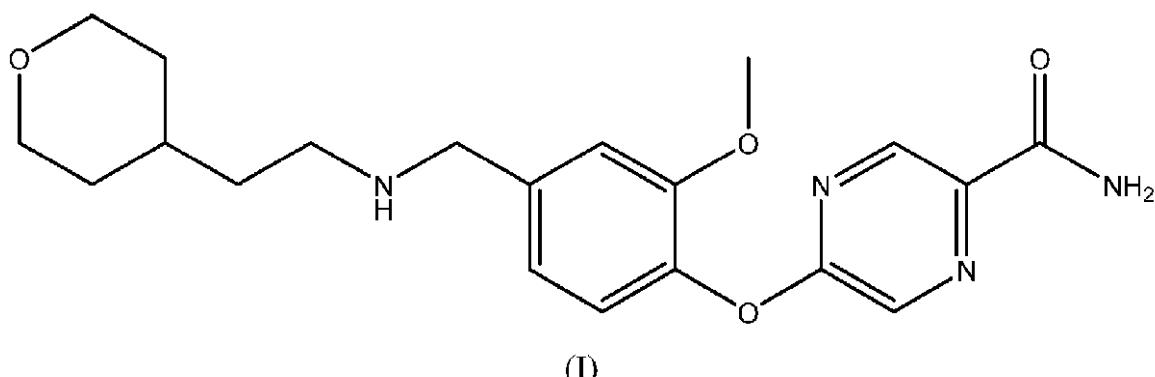
【請求項14】

前記治療有効量が約0.05mg～約0.5mg/日である、請求項13に記載の使用。

【請求項15】

ヒトのオピオイド誘発性便秘の治療または予防のための医薬の調製における、治療有効量の式(I)：

【化5】



の化合物またはその薬学的に許容され得る塩の使用であって、前記治療有効量が約0.01mg～約1.0mg/日である使用。

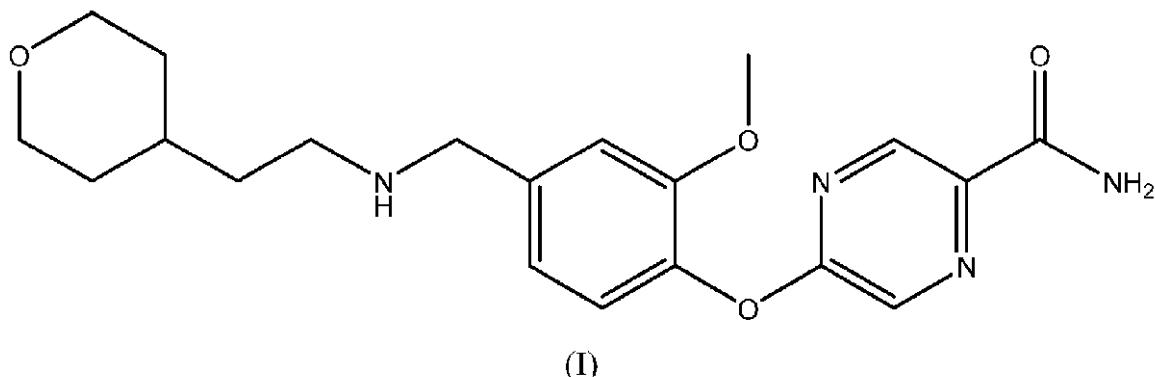
【請求項16】

前記治療有効量が約0.05mg～約0.5mg/日である、請求項15に記載の使用。

【請求項17】

ヒトのオピオイド誘発性腸管機能不全の治療または予防のための医薬の調製における、治療有効量の式(Ⅰ)：

【化6】



の化合物またはその薬学的に許容され得る塩の使用であって、前記治療有効量が約0.01mg～約1.0mg/日である使用。

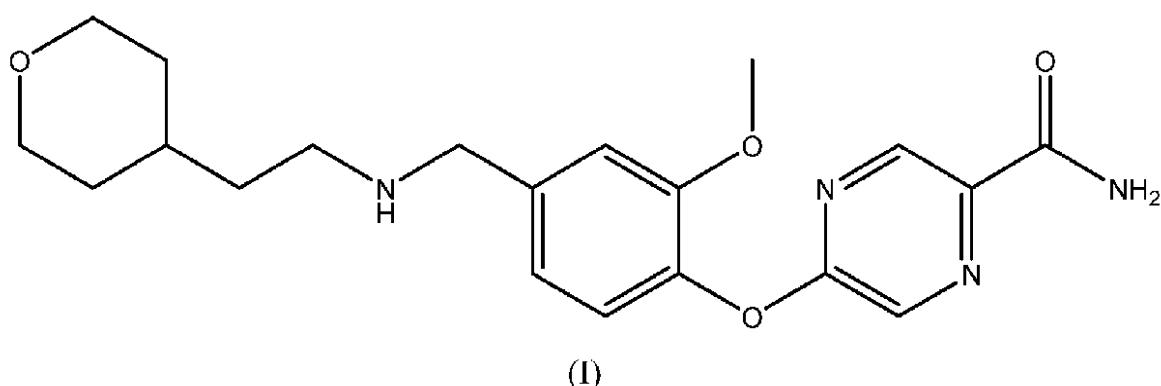
【請求項18】

前記治療有効量が約0.05mg～約0.5mg/日である、請求項17に記載の使用。

【請求項19】

ヒトのオピオイド誘発性便秘を治療または予防するための医薬組成物であって、治療有効量の式(Ⅰ)：

【化7】

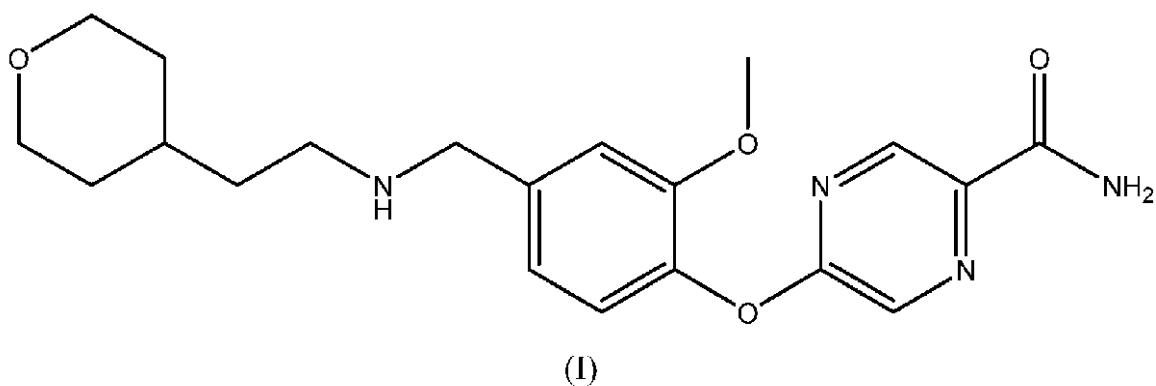


の化合物またはその薬学的に許容され得る塩を含み、前記治療有効量が約0.01mg～約0.5mg BIDである、医薬組成物。

【請求項20】

ヒトのオピオイド誘発性腸管機能不全を治療または予防するための医薬組成物であって、治療有効量の式(Ⅰ)：

【化8】



の化合物、またはその薬学的に許容され得る塩を含み、前記治療有効量が約0.01mg～約0.5mg BIDである、医薬組成物。